

「支部意見」の反映を

近藤 哲男



本年度から、日本木材学会九州支部の支部長を仰せつかりました九州大学大学院農学研究院の近藤哲男です。まず、法人化への対応など大変なご尽力をされました宮崎大学の目黒前支部長および前執行部の方々に対しまして厚く御礼を申し上げますとともに、僭越ですが本当にお疲れ様でしたと労いの言葉を述べさせていただきたいと思います。

新執行部となって、前執行部の運営からとりたてて新たなものに変えていこうというものではありません。新支部長としてはまず、これまでの実績を活かして九州支部をさらに発展させていきたいということです。特に、九州支部の声を本部に反映させること、支部会員に対するサービスの向上による賛助会員および会員の確保については、当面の課題として対応したいと思います。

個人的なことになりますが、私が九州大学に赴任してちょうど十年が経ちました。その時を思い浮かべてみますと、赴任直前まで本部の執行部で会計担当常任委員（現在は常任理事）を仰せつかっておりました。その時が初めて九州支部で発行している「木科学情報」という名を耳にしました。しかし、全く実態は知らずじまいでした。ただし、当時の東大の飯塚学会長が九州支部は支部として精力的に活動してくれていると執行部会でおっしゃったことは鮮明に覚えております。その後、すぐに九州支部に所属になり、同時に何と「木科学情報」編集担当となってよくよく知ることになりました。また、同時に支部大会実行委員会にも事情の分からないまま関与しました。その時にはっきりと飯塚学会長のおっしゃった九州支部の活気を意識できました。

その時から十年たち、現状では理事、評議員等の本部との橋渡し役が少なくなり、支部の声を本部に

伝える機会が減ってきています。私は、支部長としてのみならず、一支部会員としても、この活気ある九州支部の声が全国に伝わらないことは寂しく、また木材学会のためにも損失だと思えます。ぜひとも、この2年間に何とか改善したいものと思っております。同時に、支部会員に対して支部が供給できるサービスとはどこまでなのかについて、執行部で継続して考えていきたいと思っております。

前執行部では、副支部長を仰せつかっておりました。その就任の際にも木科学情報に「支部の有難味」を感じて」と題して、ご挨拶を寄稿させていただきました。支部大会はコンパクトな集まりであるがゆえに、木材学会の様々な分野、すなわち、樹木組織から成分の化学、生分解、ならびに乾燥や木構造利用、エネルギー化へと学術的にも利用面においても木材のもつ多様性を感じることができ、年次大会本大会と支部大会が棲み分けされているものと、副支部長となって初めて意識できるようになったとお伝えしました。同時に、さまざまなご専門の支部会員の方々との交流もこれからは一層活発にできるようになれば、このことこそ、まさに「支部の有難味」だと述べました。現在でも、もちろんその考えは変わっておりません。その上に、それぞれの役割を果たす持ち寄り易い「研究交流の場(プラットフォーム)」としての役割を支部がうまく受け持つことできたら、皆様に支部の有難味をさらに感じていただけるのではなかろうかと思う次第です。支部の発展のため、ご遠慮なく執行部にご意見を頂ければ幸いです。どうかよろしくお願いいたします。

(こんどう てつお：九州大学大学院農学研究院)